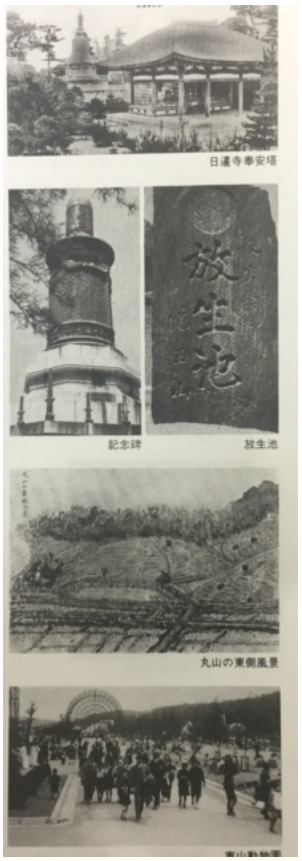
「東山村」の歴史

名古屋市千種区とは、生まれたときから「縁」がある。かつての「千種町」とともに、「東山村」にも住んだことになる。田代町瓶杁（のちに新池町に町名変更）、清住町、そして星ヶ丘である。『千種区史』から「東山村」についても紹介したい。

この地域は、覚王山丘陵および東山丘陵の西半とその間に入り込んだ川名川（山崎川）低地の区域である。明治 9 年に末森村、丸山村、上野新田の諸村が合併して、田代村を組織。鍋屋上野村のみは西春日井郡に属していたが、同 22 年には千種村の一部をあわせて愛知郡に編入され、同 39 年に鍋屋上野村と田代村が合併してできたのが東山村である。



田代村にある覚王山丘陵は東北から西南に走る 30 メートルの高さを有する丘陵で、その西南端に丸山の集落が所在している。この丘陵を縦走する旧道を四観音道と称した。丘陵地の崖下や丘陵の中へ谷が入りこんだところには、多数の灌がい用の溜池があったが、いずれも今は埋め立てられたかあるいは遊園地と化してしまった。この丘陵には、旧藩時代藩主の別荘などがあり、観月の名所として『尾張名所図会』に載せられている。明治 37 年 11 月、この地に釈迦の分骨を納める覚王山日泰寺が建立されて、この付近一帯は行楽地となり、特に高級住宅地として特色ある地域になっている。その他、放生池の北方にはもと広小路の県庁の前にあった征清戦死者記念碑（大正 9 年に移転）や名古屋市水道局の上水道給水塔がある。

末森は『徇行記』によると、名古屋の京町より高針へ通じる街道筋に近い集落で、元来戸数が少なく、百姓も不足の状態であったので、寛文年間庄内代官酒井七左衛門の支配の頃、支度金を出して百姓を入れてから次第に人口も増え、一村として成立することができるようになったといわれている。この地には昭和 10 年 4 月に開園した東山公園があり、公園内には植物園および動物園が設けられている。東山公園の西にある字四ッ谷一帯は、老樹が生い茂り、特に紅葉や梅などの観賞樹が多く、‥‥

下の写真は、星ヶ丘から坂を下って、東山の方に向かう道である。この道を日曜日に、本山の生協に買い物に行くときに歩いたものだ。「四ッ谷」と書かれているところは、本山から名大に向かう通りの東側あたりだ。桃厳寺の紅葉も「東山村」の歴史とも関わりがあるのだろう。

(2017 年 12 月 10 日)